

眼科 初期研修プログラム

必ず習得するアウトカム

1. 眼疾患の病態を理解し、緊急性疾患の評価を行う。
2. 細隙灯顕微鏡、眼底鏡を使用し診察を行う。
3. 顕微鏡下での手術手技を行う。

研修目的

眼疾患に対する基本的な診察方法および、眼科緊急性疾患の判断と初期対応の習得を目的とする。

研修目標

◇ 一般目標

眼疾患に対する基本的な診察方法を学び、眼科緊急性疾患の判断と初期対応の習得を目指す。また顕微鏡下での操作を経験することで縫合などの技術習得を目指す。

◇ 行動目標(SBOs)

1. 眼疾患の診断に必要な病歴を聴取し記載することが出来る。
2. 屈折検査、視力測定、眼圧測定などを行い視機能評価を行うことが出来る。
3. 細隙灯顕微鏡、眼底鏡を使用し診察を行い、所見を記載することが出来る。
4. 頻度の多い眼疾患に対する治療を行うことが出来る。
5. 眼科緊急性疾患の初期対応が出来る。
6. 顕微鏡下手術の基本手技を理解することが出来る。

◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技

白内障、緑内障、糖尿病網膜症、網膜剥離などの手術手技を経験することが出来る。
その他の眼科疾患、黄斑変性などに対する治療を経験することが出来る。

研修方略

LS	方法	該当 SBOs	対象	場所	媒体	人的資源	時間	学習時期
1	実技	2	研修医	外来	臨床研修実技	視能訓練士	2 時間	月曜午後
2	外来研修	1,3,4,5	研修医	外来	カルテ	指導医	外来時間	毎日
3	実技	6	研修医	手術室	顕微鏡	指導医	手術時間	月水金

研修評価

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1~6	形成的	態度、知識	指導医	研修中	観察記録

週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 外来診療 手術	病棟回診 外来診療	病棟回診 外来診療 手術	病棟回診 外来診療	病棟回診 外来診療 手術
午後	外来診療 手術	外来診療	外来診療 手術	外来診療	外来診療 手術

指導責任者および指導医

指導責任者： 高橋 秀肇

指導医： 西郷 陽子

〃： 多田 麻子

〃： 安達 彩

〃： 柳町 真希

〃： 浅野 良視

学生（4～6年生）や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否

参加可 ・ 参加不可

研修医発表会、学会発表に対する指導体制

研修医発表会や学会で発表できるよう指導を行う。

同時期に受け入れ可能研修医数（1クール：3ヶ月）

2名/1クール

初期研修医 眼科研修目標

初期研修医が眼科での研修期間を有意義なものにするため、下記の学習、手技獲得の目標を設定した。眼科で経験する疾患の数や種類に研修時期が大きく影響するため、下記の目標は必ずすべてを満たす必要はない（経験できない場合もあり得る）が、眼科を専門としない医師でも最低限経験しておくといよい手技や行為等を含めているため、努力目標としてなるべく経験できるように積極的に研修していただきたい。また、研修終了時に下記の目標の達成度を確認し、研修の振り返りを行う。

眼科研修で習得する…

① 技術

- 1) 問診の取り方
- 2) 細隙灯顕微鏡を使用した診察
- 3) 眼底鏡を使用した診察
- 4) 眼圧の測定
- 5) 手術用顕微鏡を使用した処置

② 知識

- 1) 眼科疾患の基礎知識（頻度、鑑別、治療など）
- 2) 眼科の救急疾患

眼科研修で経験する…

① 症例

- 1) 網膜硝子体疾患（糖尿病網膜症、網膜剥離など）
- 2) 緑内障
- 3) 白内障
- 4) 眼感染症とぶどう膜炎
- 5) 神経眼科

② 医療行為

- 1) 新患または紹介患者：問診、診察、治療方針の決定
- 2) 結膜下注射や硝子体注射などの外来小処置
- 3) 翼状片手術や霰粒腫などに対する手術顕微鏡を使用した医療行為
- 4) 通水試験

③ プレゼンテーション等

- 1) 担当患者のプレゼンテーション
- 2) 症例のまとめ

その他、症例がいれば経験できる手技

- 1) 視野検査
- 2) 網膜電図